



rise

転んでも起き上がる

DHARURISER PLANNING

▲「ヒーロー」について熱く語る和知健明さん(左)と決めポーズのダルライザー。

「次の世代の勇気しゅりたいたい」

白河の「当地ヒーロー」ダルライザーに聞く

私たちは8月9日、白河市の「ダルライザープランニング」を訪れ、代表の和知健明さん(39)に、「当地ヒーロー「ダルライザー」としての活動について話を聞いた。2015年の映画製作をはじめ、ヒーローショー、グッズ開発など活動の幅は広い。さらに、ヒーローの動きを格闘技を通じて実際に教えていただいた。(ありさ)

「変身」ではなく「着替え」

ダルライザーとは、和知健明さん(39)が演じている等身大のヒーローのことだ。和知さんは「誰でもヒーローになれる」と言う。多くのヒーローは、人間が「超人」に変身して悪を倒す。和知さんは「変身」と言わずに「着替え」と表現している。「ダルライザーは、他のヒーローと違って

「転んでも起き上がる」というテーマを訴え続けている

子供たちをヒーローに

子どもの頃の和知さんは二足歩行ロボットを作りたいという夢をもっていたそうだ。しかし、高2の時から演劇に興味を持ち、芸術系の大学に進学。演劇部に入り、新劇に取り組み、卒業後に白河に戻った。27歳の時にお子さんが誕

ます。体は大きくならないし、武器を持つてはいけない。普通の人間として、子供たちに勇気を与える存在になろうと思っっています」(伶奈・瑠那)

次は「育成」

「故郷の白河は大好きです。でもシャッター通りができていたりして活気がないな、と感じることもありました。仲間たちと何かしたいな、と話していました」東日本大震災後は「夢」をテーマにした。「夢は内側から湧いてくるものなんです。お客さんも従来通り来てくれました。福島へのイメージを取り払うのに少しは役に立ったかな」

「次の課題は『育成』です。子供たち一人ひとりがヒーローになれる活動を続けていきたいです」(一葉)

に、活動を続けてきた。

和知さんの話を聞いて、「ヒーロー」とは人の心を元気にさせる人だと思っただ。和知さんは「普通の人が着替えているだけだから誰でもヒーローになれる」と言っていた。だから、人の心を元気にできる人なら、誰でもヒーローになれるのだ

▼和知さんは、あるエピソードを紹介してくれた。「ヒーローショーが終わったとき、三兄弟が握手を求めて来た。いちばん上のお兄ちゃんも握手を優先させ、まだベビーカーに乗っていた弟にも握手をしてもらい、最後に自分が握手をしてもらった。そして『ありがとうございました』。この子こそ本当のヒーローだな、って思ったんです」▼困っている人がいて、その人を助けてあげたらそれがヒーローなのだ。そんな優しい心を持っている人が本当のヒーローといえると思う。そして、私もそんな優しい心を持ったヒーローになりたいと思った。(綾莉)

強烈パンチ!

和知さんは、ダルライザー以外にも、取り組んでいることがある。それは、KEYSI(ケイシ)と呼ばれる格闘技だ。他の格闘技にはない魅力を感じたのだそう。さまざまな人に「ケイシ」のことを知ってもらおう取り組みを行っている。さらに、日本では知名度が低かった「ケイシ」を自身

の映画で初めて取り入れ、日本で広める先駆けとなった。和知さんは「ケイシ」を始めてから、体の使い方が大きく変わった」という。「ケイシ」がダルライザーの動きに与えた影響は大きいに違いない。取材班も「ケイシ」を体験させてもらった。頭を守りながら攻める方法や、簡単に逃げの方法などを教えていただいた。「ケイシ」のすごさを身をもって感じる



私たちが作りました。

左からウオード琴乃さん(中島村立滑津小学校6年)・鈴木一葉君(郡山ザベリオ学園中学校1年)・深谷瑠那さん(市立白河第二小学校6年)・小林綾莉さん(郡山市立高瀬小学校5年)・表ありささん(会津若松ザベリオ学園高校2年)・藤原伶奈さん(市立白河第二中学校1年)